

図1. 1 利根川【水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況】

表 1. 1 近年の水質の状況 (1)

近年の水質状況(利根川)(1)

対象	水域	類型	環境基準点	年度	BOD(mg/L)					pH			DO(mg/L)				SS(mg/L)				大腸菌群数(MPN/100mL)			
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
河川	利根川上流(1)	AA	広瀬橋	H15	< 0.5	0.8	0.6	0.6	1	7.1	7.6	6.5~8.5	10.0	13.0	11.0	7.5	< 1	6	3	25	330	1,700	870	50
				H16	< 0.5	0.8	0.7	0.8		6.8	7.5		9.9	13.0	11.0		< 1	20	4		79	7,900	2,700	
				H17	< 0.5	0.8	0.6	0.8		7.2	7.3		9.5	12.0	11.0		< 1	10	3		17	7,900	2,000	
	利根川上流(2)	A	月夜野橋	H15	< 0.5	0.9	0.6	0.5	2	7.0	7.6	6.5~8.5	10.0	13.0	11.0	7.5	< 1	4	1	25	45	4,900	1,100	1,000
				H16	< 0.5	0.8	0.7	0.8		6.8	7.7		9.0	14.0	11.0		< 1	16	4		230	4,900	1,500	
				H17	< 0.5	0.5	0.5	0.5		7.2	7.6		9.6	13.0	11.0		< 1	10	3		20	3,300	1,400	
	利根川上流(3)	A	大正橋	H15	< 0.5	1.1	0.7	0.8	2	7.2	7.8	6.5~8.5	9.6	15.0	11.0	7.5	1	25	8	25	27	4,900	2,300	1,000
				H16	< 0.5	8.0	1.4	0.9		7.1	7.8		9.3	14.0	11.0		1	250	31		1,300	490,000	88,000	
				H17	< 0.5	1.9	0.8	0.8		7.2	7.8		9.2	14.0	11.0		1	24	6		790	7,900	3,700	
	利根川上流(3)		群馬大橋	H15	< 0.5	0.9	0.6	0.6		6.9	7.2		8.3	14.0	11.0		5	560	36		230	170,000	16,000	
				H16	< 0.5	1.1	0.7	0.9		6.8	7.4		8.6	13.0	11.0		2	34	7		9	3,500	920	
				H17	< 0.5	1.6	0.8	0.9		6.9	7.4		8.1	13.0	10.0		4	160	13		330	130,000	19,000	
	利根川上流(4)	A	福島橋	H15	< 0.5	1.0	0.6	0.6	2	7.0	7.4	6.5~8.5	8.9	13.0	11.0	7.5	4	60	17		140	28,000	6,400	1,000
				H16	< 0.5	3.6	0.9	0.7		7.0	7.6		7.4	13.0	10.0		4	160	24		20	79,000	15,000	
				H17	< 0.5	2.0	0.8	0.9		6.9	7.4		9.0	13.0	11.0		2	42	9		310	9,200	2,700	
			坂東大橋	H15	0.7	3.1	1.1	1.0		7.1	7.7		8.1	13.0	11.0		4	700	55		330	330,000	32,000	
				H16	0.6	1.9	1.3	1.7		7.1	7.8		10.0	13.0	11.0		2	46	11		790	33,000	6,000	
				H17	0.7	2.2	1.2	1.3		6.9	7.5		8.4	13.0	11.0		5	28	10		230	33,000	9,000	
			利根大堰	H15	0.6	1.5	1.0	1.2		7.2	7.7		7.8	13.0	10.0		2	20	8		790	33,000	9,100	
				H16	0.8	1.7	1.2	1.2		7.3	7.8		8.4	12.0	10.0		2	73	10		700	49,000	9,200	
				H17	0.9	1.7	1.4	1.7		7.1	7.6		7.0	13.0	9.9		2	20	7		2,300	110,000	25,000	
	利根川中流	A	栗橋	H15	0.6	1.9	1.2	1.3	2	7.1	7.6	6.5~8.5	8.1	11.0	9.8	7.5	4	15	10	25	790	33,000	5,400	1,000
				H16	0.7	2.3	1.6	1.9		7.3	7.9		8.1	11.0	9.9		3	19	12		490	49,000	7,800	
				H17	0.9	3.0	1.6	1.6		7.1	7.6		7.5	12.0	9.6		5	27	11		490	79,000	14,000	
	利根川下流	A	栄橋	H15	1.2	4.5	1.9	1.9	2	7.4	9.0	6.5~8.5	6.8	13.0	9.8	7.5	3	28	11	25	220	28,000	8,100	1,000
				H16	1.0	3.9	1.9	2.0		7.4	8.7		6.5	12.0	9.5		3	22	11		790	24,000	6,300	
				H17	1.0	2.5	1.6	2.0		7.4	7.9		7.3	12.0	9.4		2	24	10		280	24,000	6,800	
			布川	H15	1.2	4.5	1.9	1.9		7.4	9.0		6.8	13.0	9.8		3	28	11		220	28,000	8,100	
				H16	1.0	3.9	1.9	2.0		7.4	8.7		6.5	12.0	9.5		3	22	11		790	24,000	6,300	
				H17	1.0	2.5	1.6	2.0		7.4	7.9		7.3	12.0	9.4		2	24	10		280	24,000	6,800	
水郷大橋			H15	1.1	3.1	2.1	2.5		7.4	8.4		6.5	14.0	9.7		5	15	11		220	1,700	680		
			H16	1.1	3.8	2.3	2.8		7.5	8.8		5.8	14.0	9.7		5	16	11		22	7,000	2,000		
			H17	1.3	4.3	2.3	3.0		7.1	8.4		6.0	15.0	9.8		7	24	11		22	7,900	2,300		
佐原			H15	1.1	3.1	2.1	2.5		7.4	8.4		6.5	14.0	9.7		5	15	11		220	1,700	680		
			H16	1.1	3.8	2.3	2.8		7.5	8.8		5.8	14.0	9.7		5	16	11		22	7,000	2,000		
			H17	1.3	4.3	2.3	3.0		7.1	8.4		6.0	15.0	9.8		7	24	11		22	7,900	2,300		

表 1. 1 近年の水質の状況 (2)

近年の水質状況(利根川)(2)

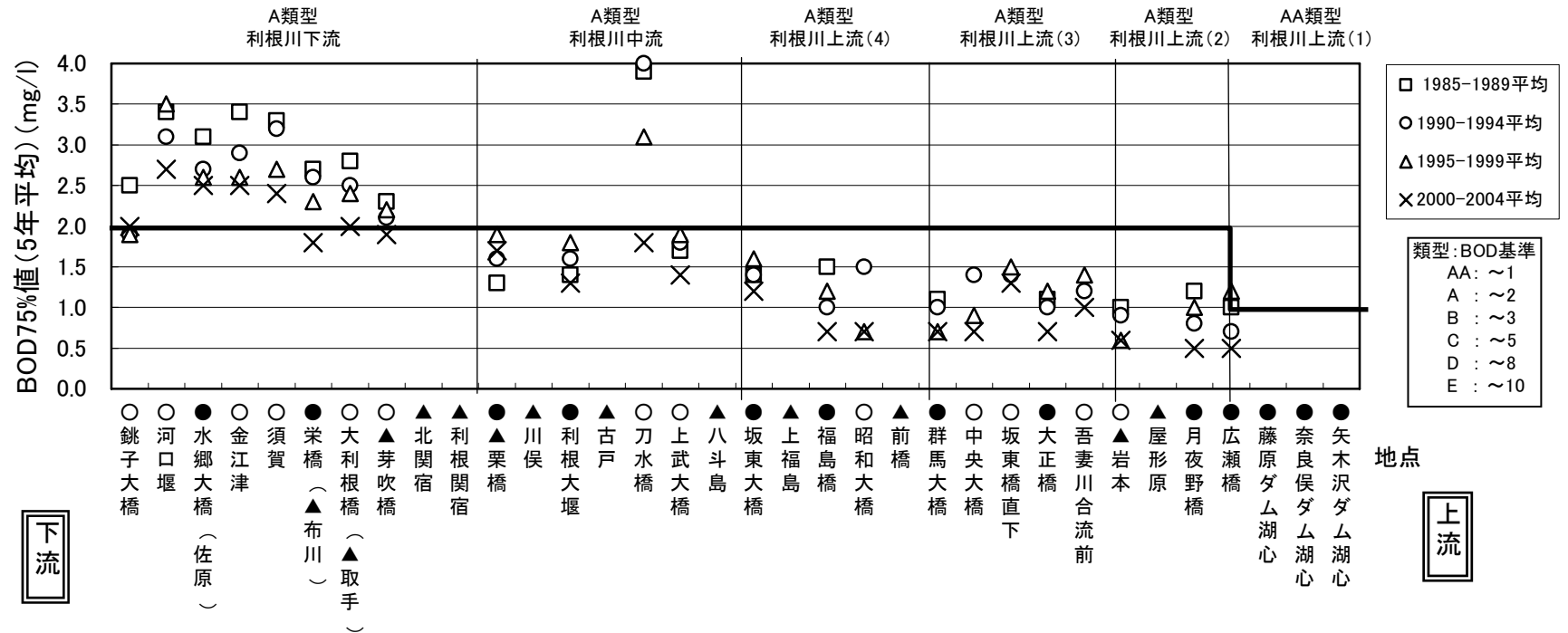
対象	水域	類型 COD・NP	環境基準点	年度	COD(mg/L)				基準	pH			DO(mg/L)				SS(mg/L)				大腸菌群数(MPN/100mL)			
					最小値	最大値	平均値	75%値		最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
湖沼	藤原ダム (藤原湖)	A・II	湖心	H15	0.5	2.8	1.6	2.0	3	6.8	7.2	6.5~8.5	9	12	10	7.5	< 1	3	1	5	7	140	78	1,000
				H16	1.3	2.1	1.8	2.0		6.4	7.3		3.3	12	9.9		< 1	10	2		< 1	94	20	
				H17	0.8	2.4	1.4	1.6		6.2	7.1		3.1	11	9.2		< 1	16	4		8	2,400	320	
	奈良俣ダム (ならまた湖)	A・I	湖心	H15	1.6	2.1	1.8	1.9	3	6.5	7.9	6.5~8.5	1	10	6	7.5	< 1	3	1	5	0	170	33	1,000
				H16	1.8	2.8	2.3	2.4		6.6	7.6		0.7	10	5.7		< 1	5	1		0	240	57	
				H17	1.9	2.5	2.2	2.3		6.6	7.6		1.1	11	6.8		< 1	1	1		0	130	22	
	矢木沢ダム (奥利根湖)	A・II	湖心	H15	1.0	1.4	1.2	1.3	3	6.6	7.8	6.5~8.5	7.6	11	9.3	7.5	< 1	6	1	5	0	790	66	1,000
				H16	1.3	2.2	1.8	2.1		6.1	7.6		2.4	11	8.5		< 1	42	8		2	270	34	
				H17	1.3	2.1	1.7	1.8		6.4	7.5		6.6	11	9.1		< 1	21	3		0	330	50	
	水域名称	類型 COD・NP	環境基準点	年度	全窒素(mg/L)				全りん(mg/L)															
	藤原ダム (藤原湖)	A・II	湖心	H15	0.25	0.52	0.36	—	0.003	0.031	0.008	0.01												
				H16	0.24	0.45	0.35	—	< 0.003	0.018	0.006	0.005												
H17				0.30	0.83	0.49	—	0.006	0.016	0.010	0.004													
奈良俣ダム (ならまた湖)	A・I	湖心	H15	0.17	0.21	0.19	—	0.003	0.006	0.004	0.005													
			H16	0.17	0.38	0.25	—	< 0.003	0.011	0.005	0.004													
			H17	0.16	0.35	0.21	—	0.003	0.008	0.004	0.005													
矢木沢ダム (奥利根湖)	A・II	湖心	H15	0.15	0.21	0.18	—	0.004	0.007	0.005	0.01													
			H16	0.18	0.24	0.19	—	0.004	0.010	0.006	0.005													
			H17	0.22	0.49	0.33	—	0.003	0.013	0.005	0.005													

出典: 公共用水域の水質測定結果

©公共用水域の水質測定結果(平成15~17年度)

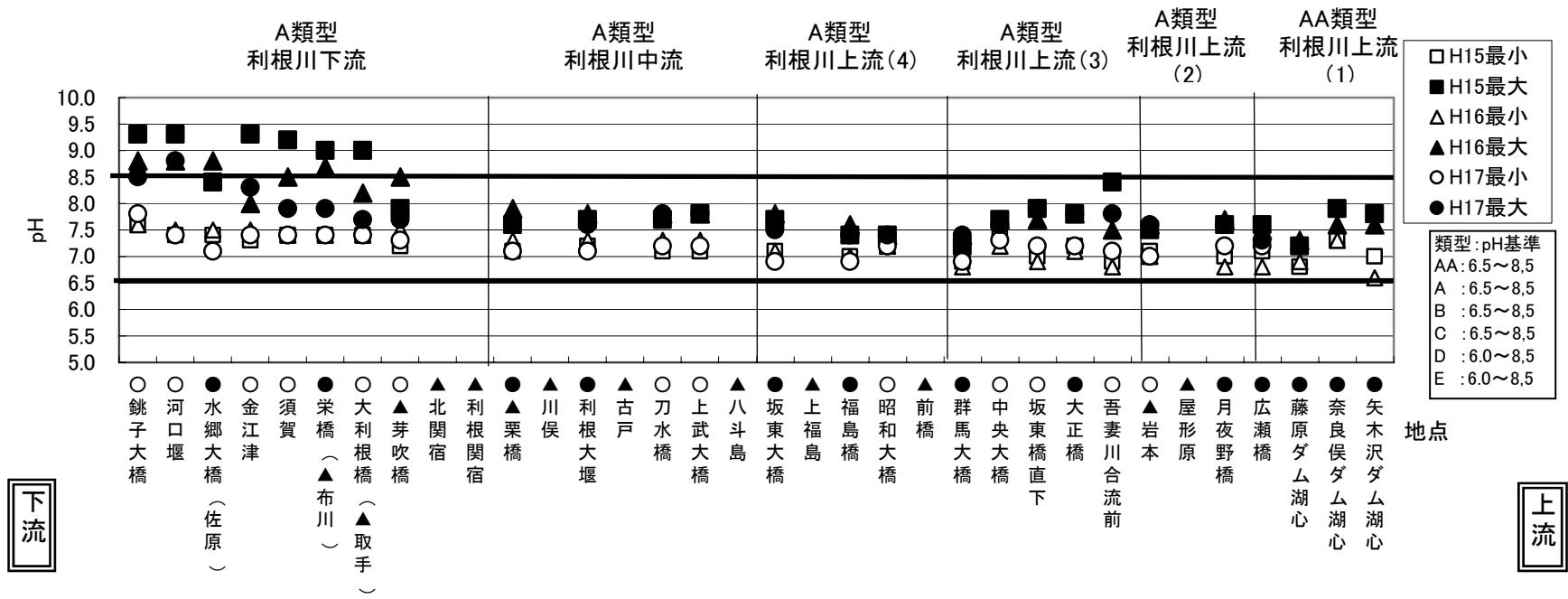
湖沼NP類型: いずれのダム湖も全窒素の項目の基準値は除く。

水質汚濁防止法の規定に基づき、全国の都道府県が毎年定める測定計画に従って、都道府県・水質汚濁防止法政令市のほか、一級河川のうち国の直轄管理区間については国土交通省地方整備局によって実施される。
原則、河川は表層(水深の2割程度)、湖沼は表層(成層期には成層を配慮)、海域は表層・中層(必要に応じて下層)の測定結果である。



出典：公共用水域の水質測定結果

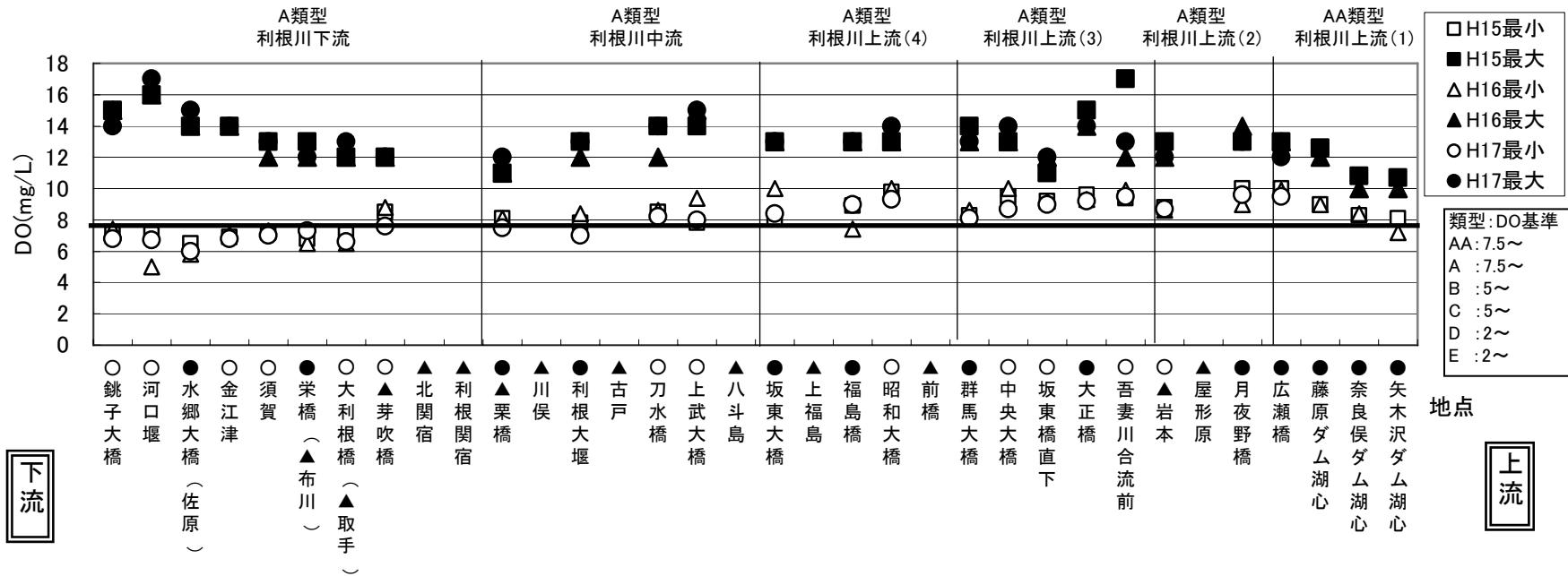
図1. 2 BOD75%値の水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

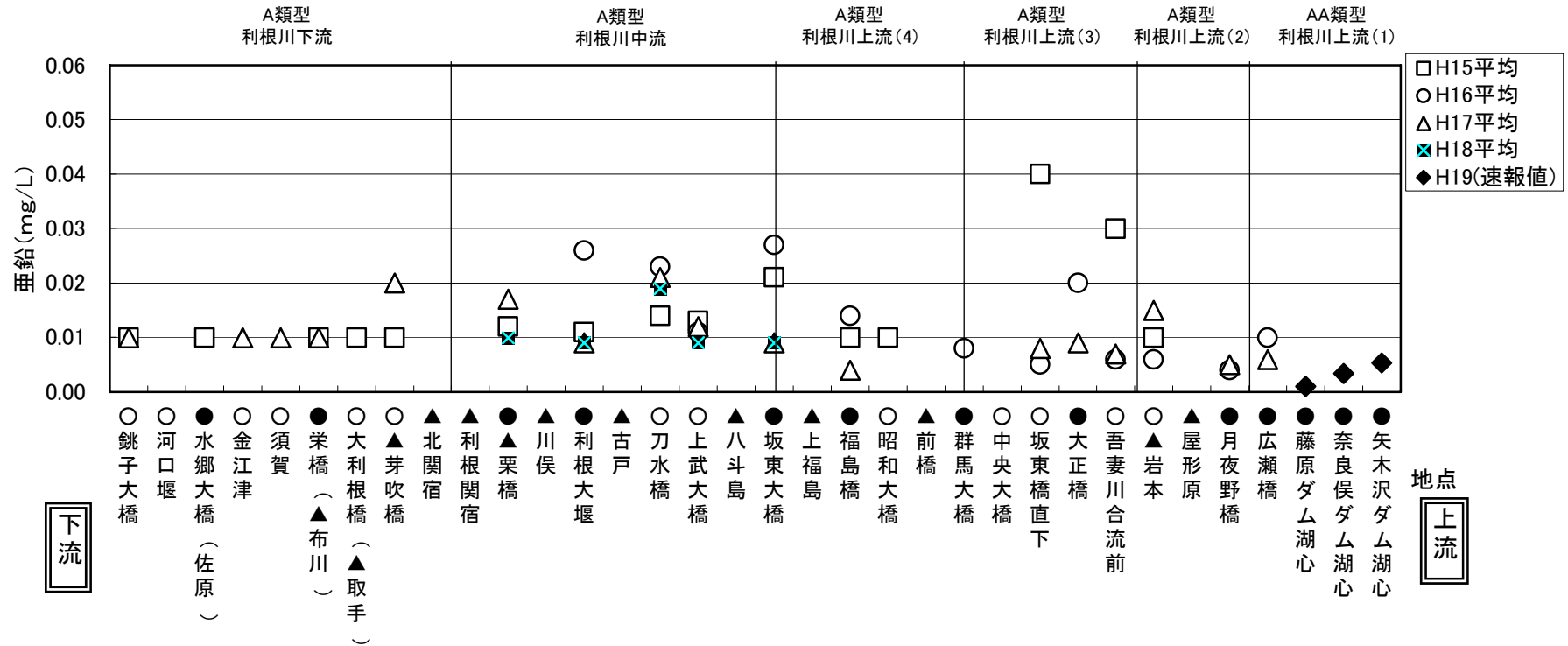
図1. 3 pHの水質縦断分布



地点: 環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典: 公共用水域の水質測定結果

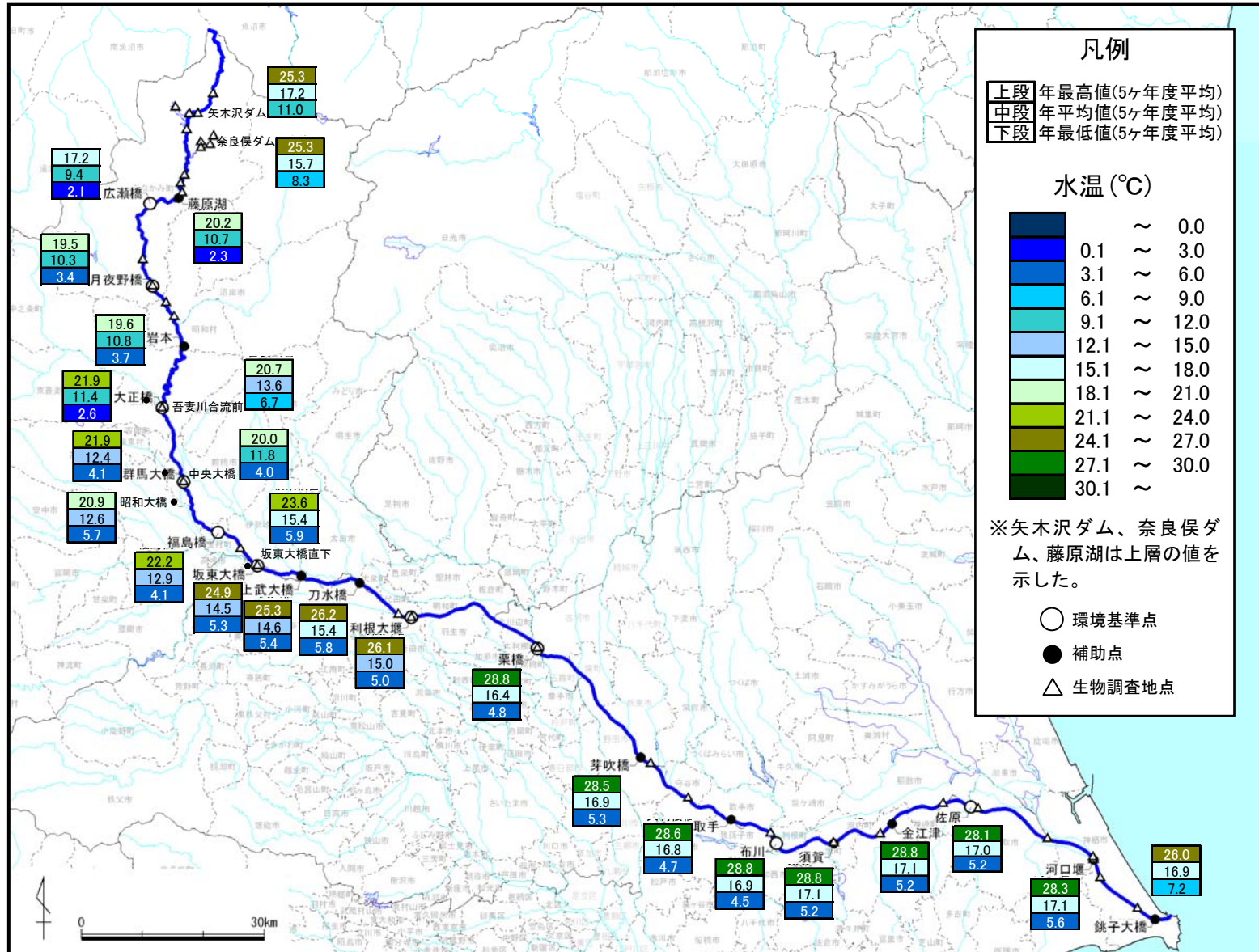
図 1. 4 DO の水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)
 ※年度平均値が<0.01、<0.03(定量下限値未満)の地点については、0.01及び0.03とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05の地点のデータは除外した。
 ※矢木沢、奈良俣ダム湖心の値は、H19(5~12月)の速報値である。
 また、藤原ダム湖心の値はH20年2月の速報値である。

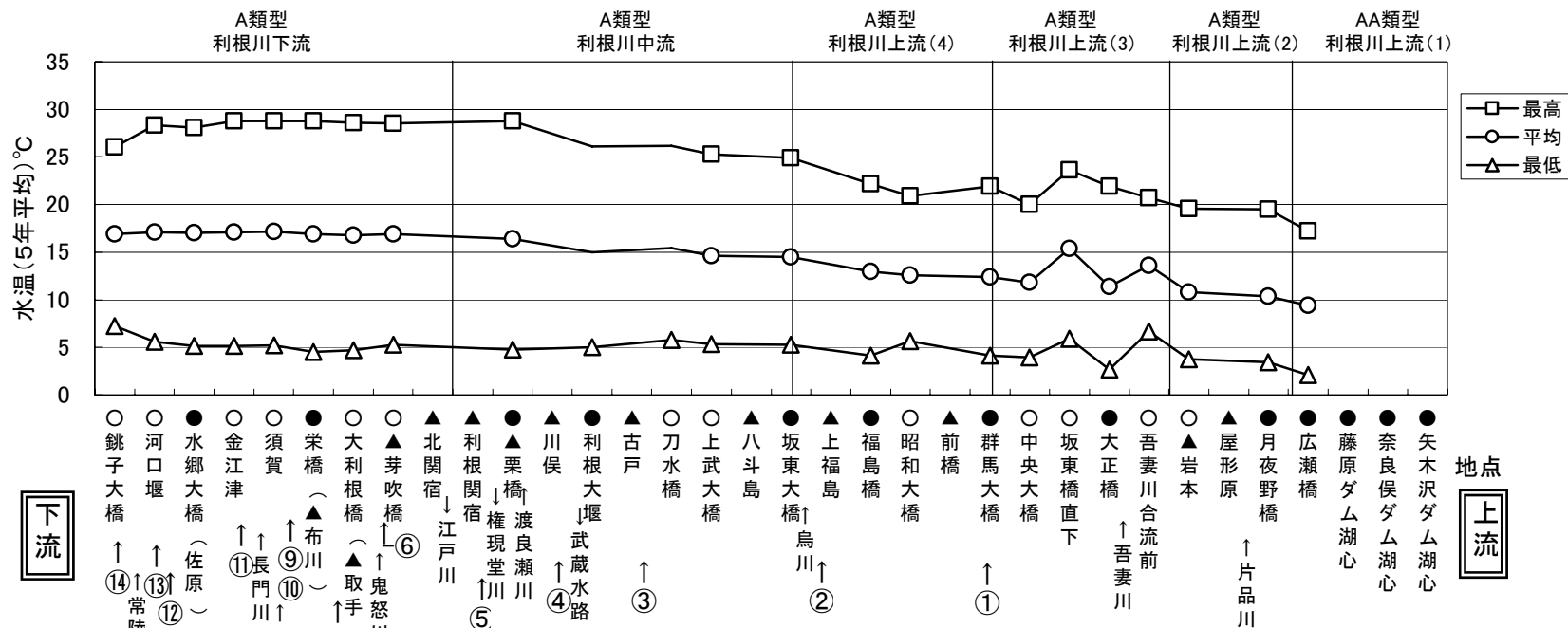
出典：公共用水域の水質測定結果

図 1. 5 鉛の水質縦断分布



出典：公共用水域の水質測定結果

図1. 6 利根川【水温】



No	河川	都道府県	処理場名	放流水質 (H16年平均)		放水量 (m ³ /s)	
				水温 (°C)	BOD (mg/l)	H16年	計画
①	利根川	群馬県	前橋水質浄化センター	20.1	8.3	0.97	1.03
②	利根川	群馬県	県央水質浄化センター	20.2	4.0	2.25	3.95
③	利根川	群馬県	西邑楽水質浄化センター	21.3	1.0	0.16	0.22
④	利根川	茨城県	古河浄化センター	19.9	8.5	0.24	0.30
⑤	利根川	茨城県	さしまアクアステーション	19.7	2.1	0.07	0.21
⑥	利根川	茨城県	岩井浄化センター	21.0	2.8	0.09	0.19
⑦	利根川	茨城県	守谷浄化センター	21.6	-	0.56	0.65
⑧	利根川	茨城県	県南クリーンセンター	21.3	6.6	0.57	0.66
⑨	利根川	茨城県	利根浄化センター	21.8	4.3	2.03	2.31
⑩	利根川	千葉県	手賀沼終末処理場	22.3	1.2	3.30	3.97
⑪	利根川	千葉県	栄終末処理場	21.8	7.7	0.10	0.18
⑫	利根川	千葉県	佐原浄化センター	19.2	1.2	0.14	0.14
⑬	利根川	千葉県	小見川浄化センター	20.2	7.7	0.06	0.15
⑭	利根川	千葉県	芦崎終末処理場	21.8	4.8	0.28	0.37

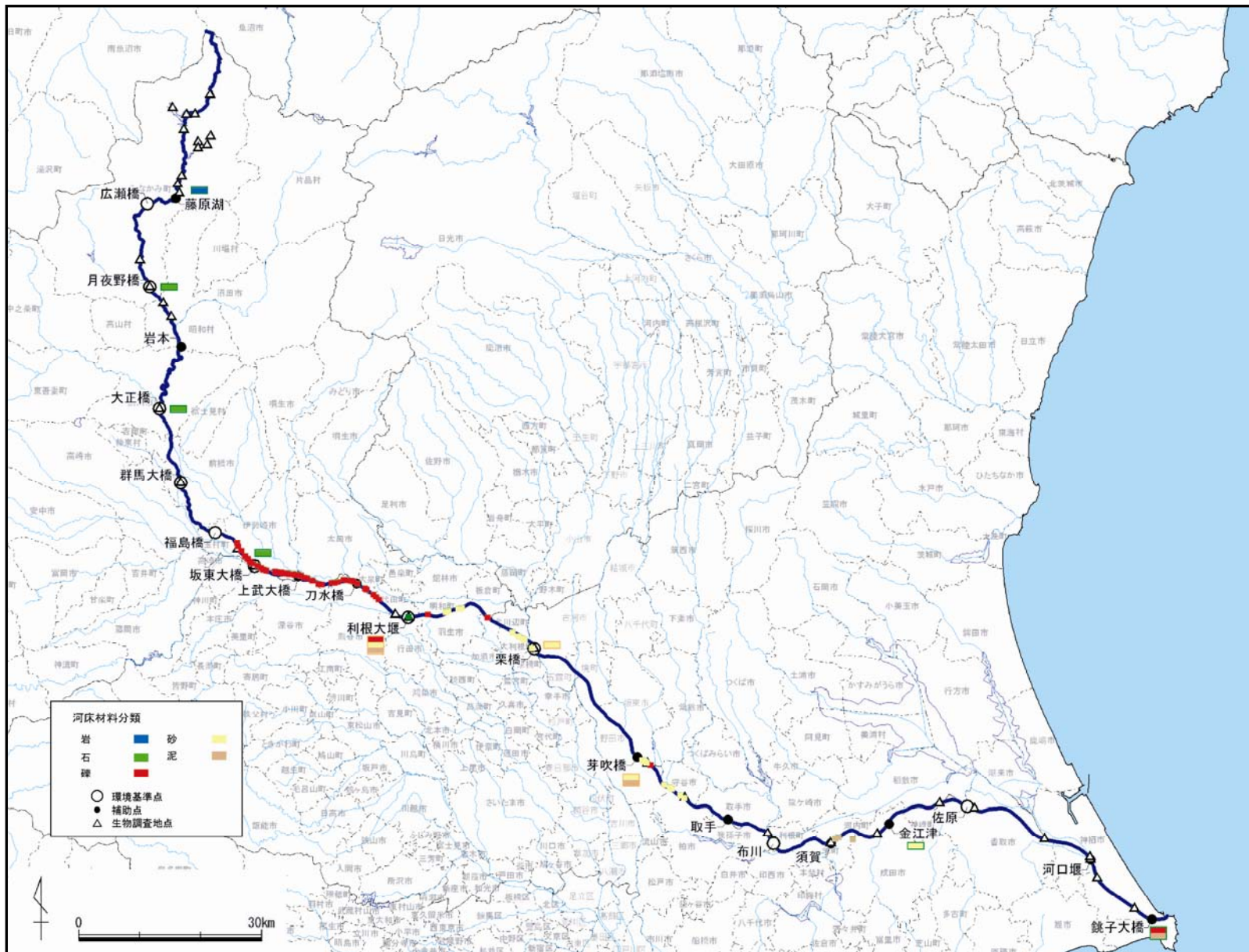
出典：平成16年度版下水道統計(行政編)

※最高・平均・最低は、平成12～16年度の公共用水域水質測定結果より、各年度において、月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、5か年でそれぞれ平均した値である。一部で月1回以上の頻度で計測していない地点がある。

※ダム湖の水温は表層データを示した。 地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

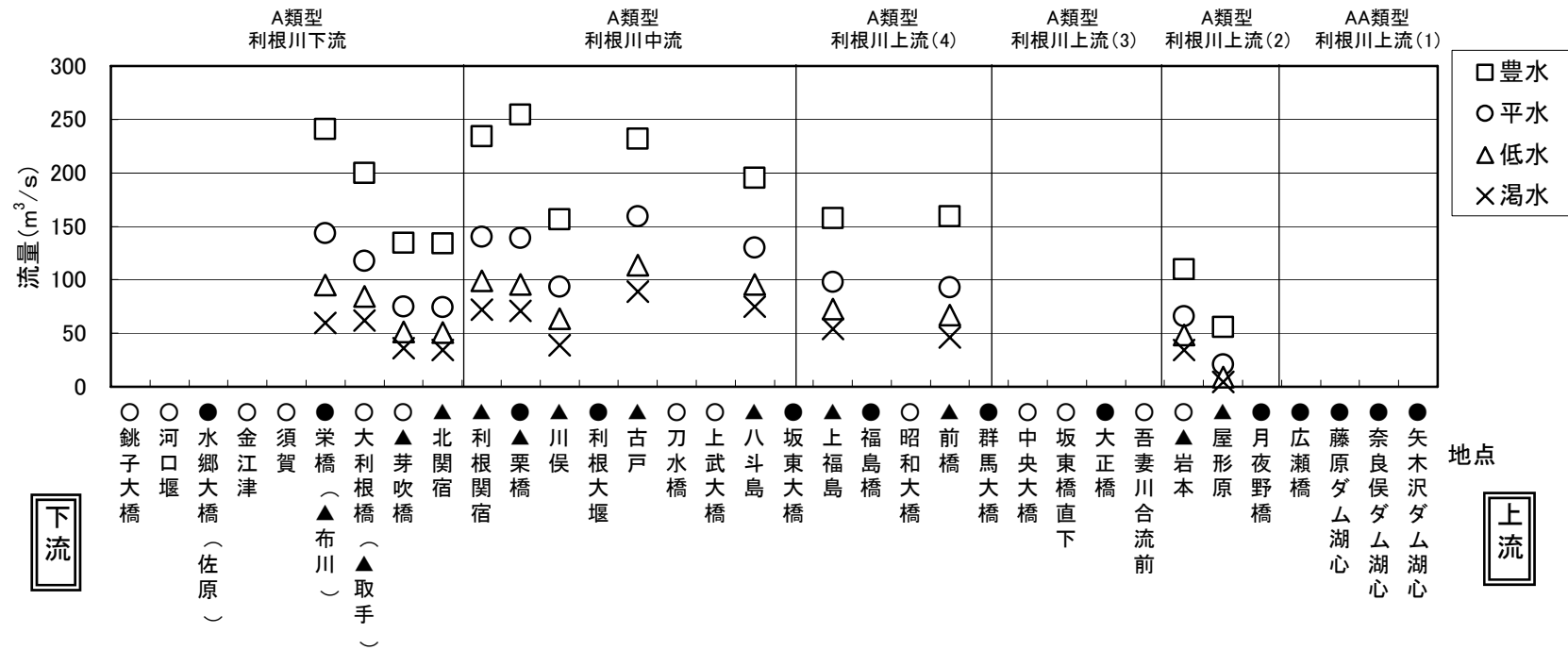
図1. 7 水温の水質縦断分布



出典：関東地方建設局「平成10年度 利根川水系(利根川)河川調査報告書」

は、平成14年度「漁協アンケート」、は平成2・3年度「河川水辺の国勢調査」より

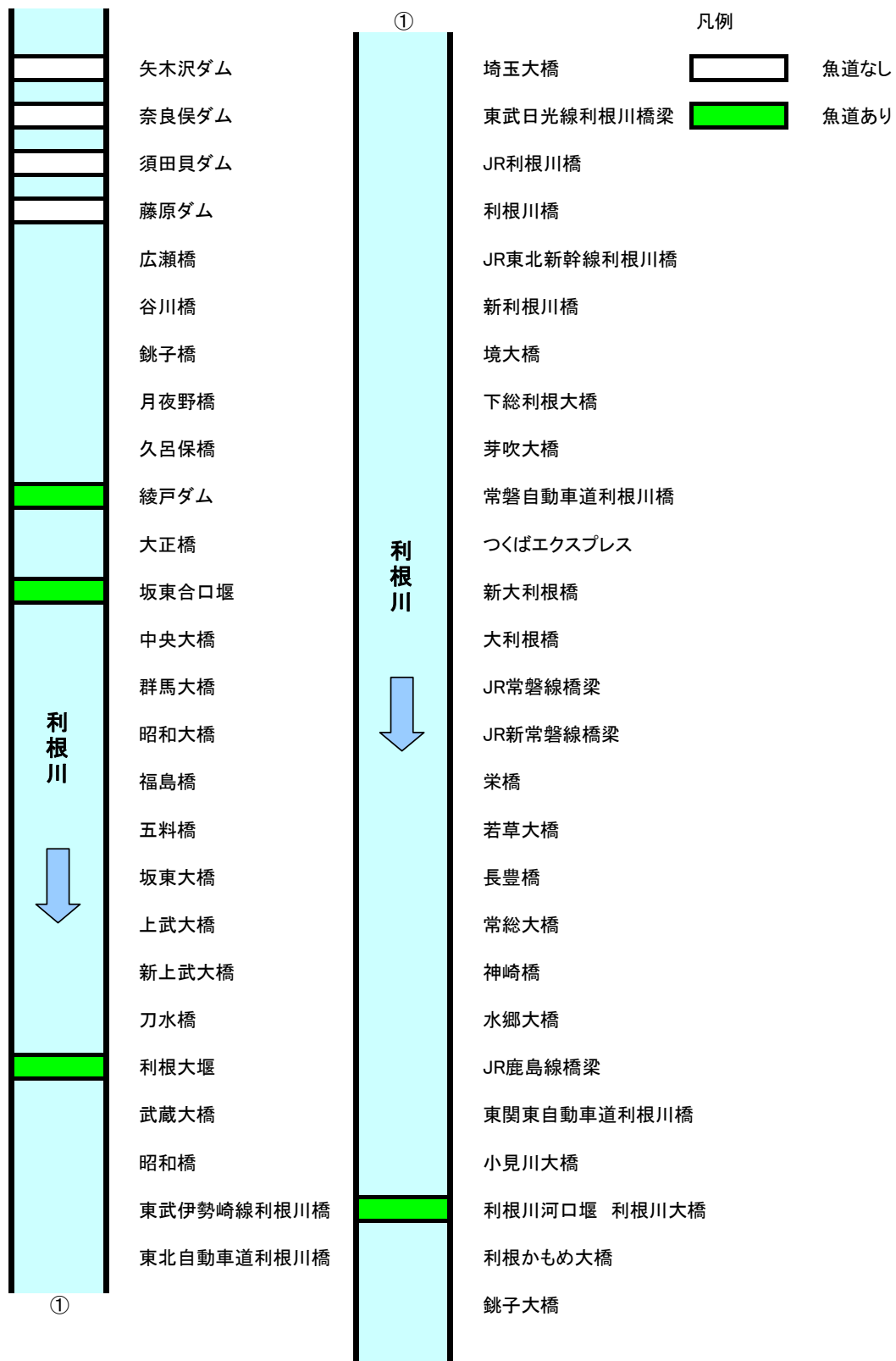
図1.8 利根川【河床材料】



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

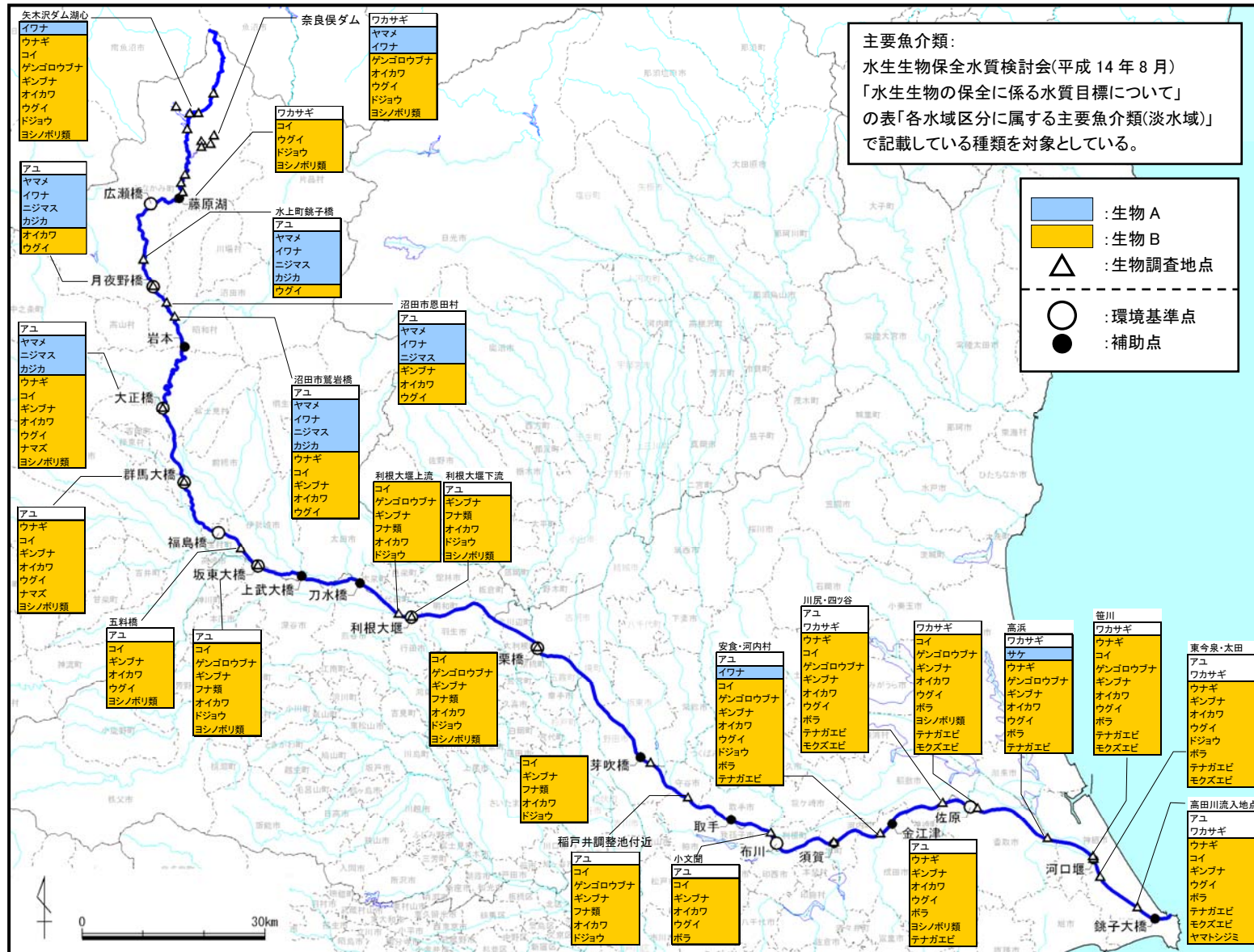
出典：流量年表（国土交通省河川局編,H14）

図1.9 流量の縦断分布



出典：国土交通省資料等を基に環境省が作成

図1. 10 主な河川横断工作物



出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」他

図 1. 11 利根川【主要魚介類の確認状況】

表 1. 2 利根川魚介類の確認状況（既存調査結果）（1）

項目・分類・科・種名	調査地点											
	1 高田川 流入地点	2 東今泉 （右岸） 太田 （左岸）	3 笹川	4 高見川 （右岸） 高浜 （左岸）	5 佐原	6 四ッ谷 （右岸） 川尻 （左岸）	7 高岡 （右岸） 金江津 （左岸）	8 河内村 （右岸） 安食 （左岸）	9 小文間 （小貝川 合流地点）	10 稲戸井 調節池付 近	11 芽吹大橋 上下流	12 渡良瀬川 合流点 付近
	調査時期											
	平成14年度 (5・8・11・1 月)	平成14年度 (5・8・11・1 月)	平成14年度 (6・9・11月)	平成14年度 (6・11月)	平成14年度 (5・11月)	平成14年度 (5・10月)	平成14年度 (5・11月)	平成14年度 (5・10月)	平成14年度 (5・10月)	平成14年度 (7・9・11月)	平成14年度 (7・9・11月)	平成14年度 (7・9・11月)
生物A 魚類	サケ科 ヤマメ											
	サケ科 イワナ											
	サケ科 サケ											
	サケ科 ニジマス											
その他 魚類	カジカ科 カジカ											
	キュウリウオ科 アユ											
	キュウリウオ科 ウカサギ											
生物B 魚類	ウナギ科 ウナギ											
	コイ科 コイ											
	コイ科 フナ類(ゲンゴロウフナ)											
	コイ科 フナ類(ギンナ)											
	コイ科 フナ類(Carassius属の複数種)											
	コイ科 オイカワ											
	コイ科 ウグイ											
	ドジョウ科 ドジョウ											
	ナマズ科 ナマズ											
	ボラ科 ボラ											
	ハゼ科 ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)											
	ハゼ科 ヨシノボリ類(カワヨシノボリ)											
	ハゼ科 ヨシノボリ(Rhinogobius属の一種)											
	テナガエビ科 テナガエビ											
	イワガニ科 モクズガニ											
	シジミ科 ヤマトシジミ											
その他 魚類	アカエイ科 アカエイ											
	カライワシ科 カライワシ											
	アナゴ科 マアナゴ											
	ニンシロ科 サツバ											
	コシロ科 コシロ											
	カタクチイワシ科 カタクチイワシ											
	コイ科 タイリクバラタナゴ											
	コイ科 ハウレン											
	コイ科 ワタカ											
	コイ科 ハス											
	コイ科 マルタ											
	コイ科 ウグイ(Tribolodon属の一種)											
	コイ科 モツゴ											
	コイ科 ビウヒガイ											
	コイ科 タモロコ											
	コイ科 カマツカ											
	コイ科 ツチフキ											
	コイ科 ニゴイ											
	コイ科 イトモロコ											
	コイ科 スコモロコ											
	コイ科 スコモロコ(Squalidus属の一種)											
	シラウオ科 イシカワシラウオ											
	ドジョウ科 シマドジョウ											
	アメリカナマズ科 アメリカナマズ											
	トウゴロイワシ科 トウゴロイワシ											
	カタヤシ科 カタヤシ											
	サヨリ科 クルメサヨリ											
	サヨリ科 サヨリ(Hyporhamphus属の一種)											
その他 魚類	クロサキ科 クロサキ											
	シマイサキ科 コトヒキ											
	シマイサキ科 シマイサキ											
	ヨウジウオ科 ヨウジウオ											
	コチ科 コチ(マゴチ)											
	スズキ科 スズキ											
	スズキ目 スズキ目の一種											
	サンフィッシュ科 フルーギル											
	サンフィッシュ科 オオクチバス(ブラックバス)											
	サンフィッシュ科 コチバス											
	アジ科 キンガメアジ											
	ヒイラギ科 ヒイラギ											
	ヒメ科 ヒメ											
	ボラ科 セスジボラ											
	ボラ科 スナダ											
	ボラ科 ボラ科											
	ハゼ科 アカウオ											
	ハゼ科 ウキゴリ											
	ハゼ科 ウキゴリ属(Gymnogobius属の一種)											
	ハゼ科 マハゼ											
	ハゼ科 アンシロハゼ											
	ハゼ科 ヒメハゼ											
	ハゼ科 アベハゼ											
	ハゼ科 シモリマハゼ											
	ハゼ科 Rhinogobius属の一種											
	ハゼ科 アカオビシマハゼ											
	ハゼ科 ヌマチチヲ											
	ハゼ科 チチフ(Tridentiger属の一種)											
	ハゼ科 ジュスカケハゼ											
	ハゼ科 ハゼ科の一種											
	タチウオ科 タチウオ											
	タイワンドジョウ科 カムルチー											
	フグ科 クサフグ											
その他 貝類	アマオブネガイ科 ヒロクチノコガイ											
	タニシ科 ヒメタニシ											
	ワカラツボ科 ワカラツボ											

※分類体系は山溪カラー図鑑日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学習研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。

データの典拠・調査機関・名称・年度

- 国土交通省・河川水辺の国勢調査、平成14年度(5・7・8・9・11・1月)調査
- 国土交通省・河川水辺の国勢調査、平成13年度(8・10月)調査(奈良ダム・藤原ダム)
- 沼田市・沼田市 自然誌(1996) 昭和57～58年度・平成0～5年度調査データ
- 上毛新聞社刊、大自然を語る(1994)・平成4～5年度調査データ

表 1. 2 利根川魚介類の確認状況（既存調査結果）（3）

項目・分類・科・種名		調査地点													
		25 藤原ダム (湖内)	26 奈良俣ダム (湖内)	27 奈良俣ダム (湖内)	28 奈良俣ダム (湖内)	29 奈良俣ダム (櫛俣川流入部)	30 櫛俣川流入部 (小)	31 矢木沢ダム (湖心)	32 矢木沢ダム (利根川流入部)	33 矢木沢ダム (奈良沢流入部)	34 矢木沢ダム (大沢流入部)	35 矢木沢ダム (幽沢カワゴ沢流入部)			
		調査時期													
		平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)	平成13年度 (8・10月)			
生物A	魚類	サケ科 ヤマメ													
		サケ科 イワナ		○	○	○	○		○	○	○	○			
		サケ科 サケ													
		サケ科 ニジマス													
その他	魚類	カシカ科 カシカ													
		キュウリウオ科 アユ													
		キュウリウオ科 ワカサギ	○	○	○	○	○	○							
生物B	魚類	ウナギ科 ウナギ									○	○	○		
		コイ科 コイ									○	○	○		
		コイ科 フナ類(ゲンゴロウブナ)		○					○	○			○		
		コイ科 フナ類(ギンブナ)									○				
		コイ科 フナ類(Carassius属の数種)													
		コイ科 オイカワ		○	○	○	○	○			○	○	○		
		コイ科 ウグイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ドジョウ科 ドジョウ		○	○	○	○	○		○	○	○	○		
		ナマズ科 ナマズ													
		ボラ科 ボラ													
		ハゼ科 ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)		○	○						○	○	○		
		ハゼ科 ヨシノボリ類(カワヨシノボリ)			○	○		○							
		ハゼ科 ヨシノボリ(Rhinogobius属の一種)													
		テナガエビ科 テナガエビ													
		イワガニ科 モクスガニ													
		シジミ科 ヤマトシジミ													
		その他	魚類	アカエイ科 アカエイ											
				カレイ科 カレイ											
				アナゴ科 マアナゴ											
				ニシン科 サツバ											
				コノシロ科 コノシロ											
				カタクチイワシ科 カタクチイワシ											
				コイ科 タイリクバラタナゴ											
				コイ科 ハクレン											
				コイ科 ワタカ											
				コイ科 ハス											
				コイ科 マルタ											
				コイ科 ウグイ(Tribolodon属の一種)											
				コイ科 モツゴ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				コイ科 ビワヒガイ											
				コイ科 タモロコ		○	○		○			○	○	○	○
				コイ科 カマツカ											
				コイ科 ツチフキ											
				コイ科 ニゴイ											
				コイ科 イトモロコ											
				コイ科 スゴモロコ											
				コイ科 スゴモロコ(Squalidus属の一種)											
シラウオ科 イシカワシラウオ															
ドジョウ科 シマドジョウ															
アメリカナマズ科 アメリカナマズ															
トウゴロウイワシ科 トウゴロウイワシ									○						
カダヤシ科 カダヤシ															
ザヨリ科 クルメザヨリ															
ザヨリ科 サヨリ(Hyporhamphus属の一種)															
その他	魚類			クロサギ科 クロサギ											
				シマイサギ科 コトヒキ											
				シマイサギ科 シマイサギ											
				ヨウジウオ科 ヨウジウオ											
				コチ科 コチ(マゴチ)											
				スズキ科 スズキ											
				スズキ目 スズキ目の一種											
				サンフィッシュ科 ブルーギル											
				サンフィッシュ科 オオクチバス(ブラックバス)											
		サンフィッシュ科 コクチバス													
		アジ科 キンガメアジ								○	○	○	○		
		ヒラギ科 ヒラギ													
		ニベ科 ニベ													
		ボラ科 セスジボラ													
		ボラ科 メナダ													
		ボラ科 ボラ科													
		ハゼ科 アカウオ													
		ハゼ科 ウキゴリ													
		ハゼ科 ウキゴリ属(Gymnogobius属の一種)													
		ハゼ科 マハゼ													
		ハゼ科 アシシロハゼ													
		ハゼ科 ヒメハゼ													
		ハゼ科 アベハゼ													
		ハゼ科 シモジマハゼ													
		ハゼ科 Rhinogobius属の一種													
		ハゼ科 アカオビシマハゼ													
		ハゼ科 スマチチブ													
		ハゼ科 チチブ(Tridentiger属の一種)													
		ハゼ科 ジュスカケハゼ													
		ハゼ科 ハゼ科の一種													
		タチウオ科 タチウオ													
		タイワンドジョウ科 カムルチー													
		ワグ科 クサワグ													
		その他	貝類	アマオブネガイ科 ヒロカチカノコガイ											
				タニシ科 ヒメタニシ											
				ワカウツボ科 カワグテツボ											

※分類体系は山溪カラー図鑑日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学習研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。

データの出典:調査機関・名称・年度
 国土交通省・河川水辺の国勢調査、平成14年度(5・7・8・9・11・1月)調査
 国土交通省・河川水辺の国勢調査、平成13年度(8・10月)調査(奈良俣ダム・矢木沢ダム・藤原ダム)
 沼田市・沼田市 自然編(1995)、昭和57~58年度・平成3~5年度調査データ
 上毛新聞社刊、大自然を語る(1994)、平成4~5年度調査データ

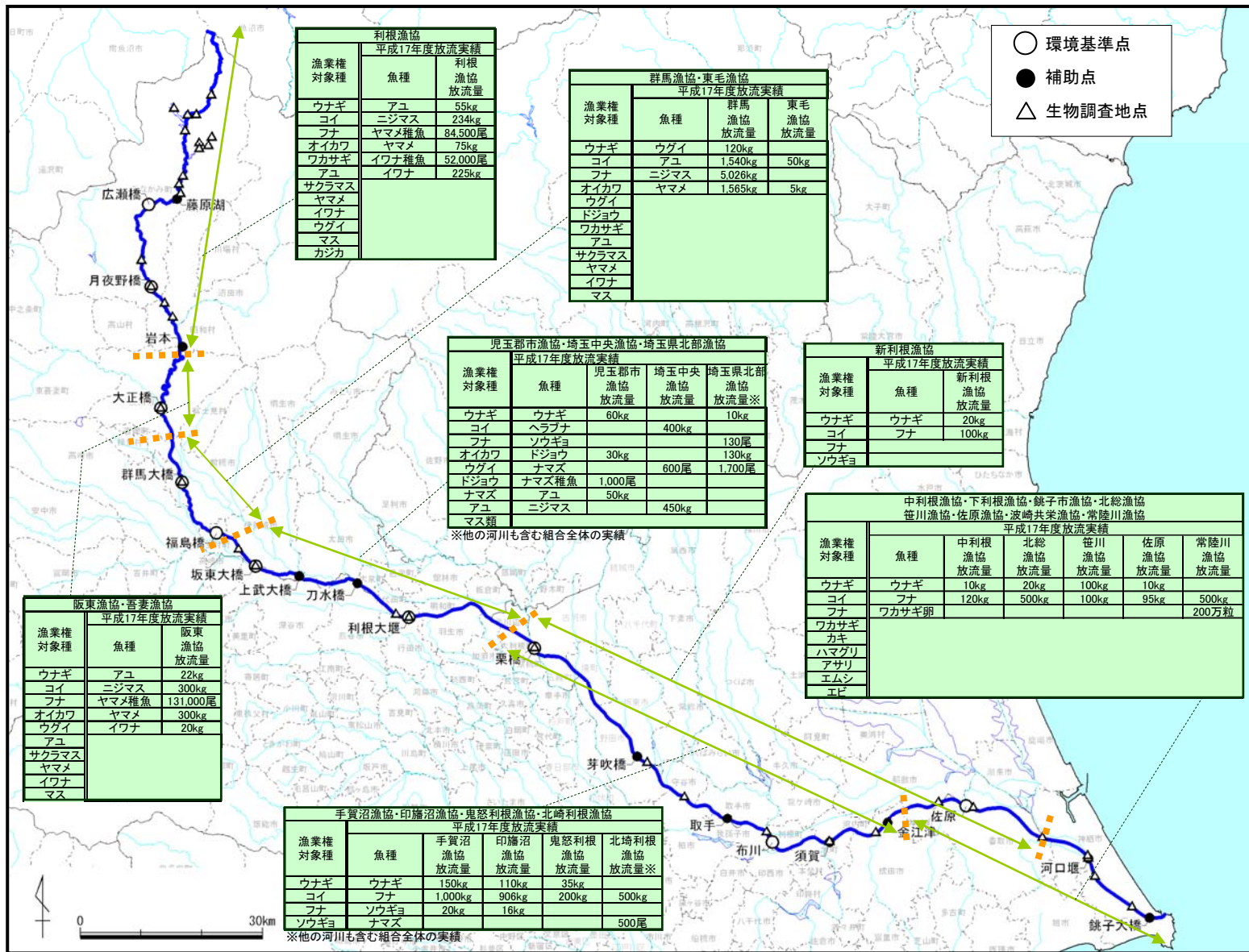


図1. 12 利根川【漁業権設定・魚類等放流状況】

表 1. 3 利根川の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者への
ヒアリング結果の整理

	上流	中流	下流
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、イワナ・ヤマメ・ウグイ・オイカワ・コイ・フナ類・アユがあげられる。 ヤマメは上流域の坂東大橋付近～藤原湖上流、イワナは岩本ダム(綾戸ダム)より上流域、ニジマスは沼田市・渋川市付近から上流域にカジカは上武大橋から上流域に生息している。 コイ・フナ類は上流にも放流個体が少量分布するが、概ね中・下流域に生息している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、ハクレン、アユ、コイ・フナ類・ウグイ・オイカワ、サケ、ボラ、ブラックバス、ナマズ、ウナギ、ワカサギ等があげられる。 サクラマスが遡上する他、イワナ・ヤマメが僅かに生息している。 コイ・フナ類は埼玉県にかかる中流の全域に生息している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類としてコイ、フナ類、スズキ、アカエイ、ウナギがあげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は下流の全域に生息している。
産卵場・仔稚魚の成育場	<ul style="list-style-type: none"> アユは坂東大橋～福島橋の間、サケは坂東大橋～福島橋の間、刀水橋付近や烏川合流点で産卵が確認。 サケ及びアユは群馬県伊勢崎市内及び坂東大橋～上武大橋間の砂礫地帯で産卵。 ウグイの人工産卵床を毎年(5-6月)設置。 ウグイは、人工産卵床が造成されている岩本～赤谷川合流点で産卵が確認されているが、具体的な産卵数等は確認していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 主にコイ・フナ類は中下流域の抽水植物帯、ウグイ等は中流域の砂利場で産卵しており、具体的な場所は年々河川も変化するので把握は困難。 アユの産卵場所は坂東大橋下流の砂礫地帯。 栗橋周辺はハクレンの産卵場。 コイやフナ類は堤防の脇、ワカサギは砂地の場所に産卵。 	<ul style="list-style-type: none"> コイやフナ類は堤防の脇、ワカサギは砂地の場所に産卵。
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> アユ、ヤマメ、イワナ、ニジマス、ウナギを放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> ナマズ、アユ、ドジョウ、ウナギ、ニジマス、ナヘラブナ、ソウギョ、フナを放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> コイ、ウナギ、シジミを放流している。
河川環境に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 藤原ダムや綾戸ダムは魚類の生息に影響を与えていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 40～50 年の洪水時には砂がよく堆積していたが、最近ではヘドロが堆積するようになった。 利根大堰には魚道が整備され、概ね遡上する魚類に対して配慮された構造となっているが、アユや小型魚等に関する対応は不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 利根川河口堰が出来てから泥がよく堆積するようになった。 利根川河口堰や常陸水門は魚類の生息に影響を与えていると考えられる。

※群馬県水産試験場、関東短期大学、埼玉県農林総合研究センター、千葉県立中央博物館、利根漁協、児玉郡市漁協、埼玉中央漁協、中利根漁協、印旛沼漁協、鬼怒利根漁協への平成 17,19 年度ヒアリング